

新指定物件【史跡】

〔名 称〕 飯田古墳群 いいだこふんぐん

〔指定所在地〕 飯田市座光寺 3338 番 1 外

〔指定面積〕 30,889.44 m²

〔概 要〕 長野県南部、中央アルプスと伊那山脈及び南アルプスに挟まれた伊那谷と呼ばれる標高 400m 台の低位または中位の段丘上の南北約 10km、東西約 2.5km の範囲に、5 世紀後半から 6 世紀末にかけて継続して築造された古墳群である。古墳群は北から座光寺・上郷・松尾・竜丘・川路という 5 つのグループ(単位群)から成る。5 世紀後半に突如として古墳の築造が始まり、古墳築造の背景には馬の文化を通じた大和政権との関わりが考えられる。

本古墳群は、内陸交通において東西地域を結ぶ交通の結節点に位置しており、独自に周辺地域と交流があったことを示すとともに、大和政権による東国経営とも関わりがあったことを物語る。また、6 世紀後葉の前方後円墳の消長及び畿内系横穴式石室受容の背景には、地域の再編成と大和政権の東国経営強化の過程を見ることができる。

飯田古墳群は広範囲に及ぶが一体の古墳群として捉えることで、古墳時代中・後期（5 世紀後半から 6 世紀末）にみられる大和政権による政治支配の状況や東国経営のあり方を知ることができるとともに、大和政権下における地域社会の動向を知る上でも重要である。

〔問い合わせ先〕 飯田市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 0265-22-4511 (内 3740)



飯田古墳群（高岡第 1 号古墳横穴式石室）

新指定物件【名勝】

〔名 称〕 よなこぼくふぐん
米子瀑布群

〔指定所在地〕 須坂市大字米子字米子山外

〔指定面積〕 585,971.05 m²

〔概 要〕 米子瀑布群は、長野県北東部を流れる千曲川水系のよなこかわ米子川の上流、標高約 1,600m 付近に位置する。米子川上流部には比高 100m ほどの岩壁が約 1km にわたって続き、その岩壁及び周辺部を、ごんげんだき権現滝、ふどうだき不動滝等、十数条の滝が流れ落ちる。そのうち、常時水を落とす滝は 10 条ほどで、そのほかに、普段落水はないものの、多くの降水量がある時に流れ落ちる滝が数条存在する。

瀑布群の中心的な滝である権現滝は、約 80m の落差で、直線的に落ちる。権現滝同様瀑布群の中心となる不動滝は、約 85m の落差で、滝口から落ちた水は下部で霧状になり、夏至の前後にはこの霧状の部分に朝日が差し込み、虹が出る。

米子瀑布群、とりわけ権現滝及び不動滝は、近世中期までは信仰の対象として捉えられ、近世後期以降はそこに景勝地としての評価を付加しつつ、現在までその姿を伝える。特徴的な地形及び地質によって独特のふうちけいかん風致景觀が形成されており、その観賞上の価値及び学術上の価値は高く、重要である。

〔問い合わせ先〕 須坂市市民共創部 生涯学習スポーツ課 026-248-9027



米子瀑布群（左：権現滝、右：不動滝）

追加指定物件【史跡】

〔名 称〕 ごんがかんがいせき
恒川官衙遺跡

〔追加指定所在地〕 長野県飯田市座光寺 4633 番 1 外

〔追加指定面積〕 2,055.72 m² (合計面積 40,202.15 m²)

〔概 要〕 恒川官衙遺跡は、7 世紀後半～10 世紀前半にかけて営まれた伊那郡家（郡衙）と考えられる遺跡であり、倉庫群をはじめとする掘立柱建物と「恒川清水」と呼ばれる祭祀遺構及び、和同開珎銀銭、陶硯、緑釉陶器などの遺物が検出され、古代国家の地域支配の実態を知る上で重要であることから、平成 26 年 3 月 18 日に史跡指定を受けている。

飯田市教育委員会では昭和 52 年から平成 27 年まで 91 回の調査を実施している。今回の追加指定対象地は、官衙域のうち、正倉域の一角をなす部分と、「恒川清水」周囲地域の郡衙に関連する祭祀遺構の存在が予想される部分にあたる。学術上重要な地域であり、条件の整った箇所を追加指定するものである。

〔問い合わせ先〕 飯田市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 0265-22-4511 (内 3740)



恒川官衙遺跡（既指定地 掘立柱建物）